

株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録 (2025年10月16日開催分)

開催年月日： 2025年10月16日(木) 17:00～18:00

開催場所： Café WASUGAZEN 愛宕グリーンヒルズ店

出席席： 番組審議員 6名

書類審査 1名

WOWOW プラス 7名

出席者

[審議員] 青木眞弥、池ノ辺直子、高寺成紀、富澤一誠、
村上典吏子、湯淺正敏 (以上 50音順、敬称略)

[放送事業者] (株式会社 WOWOW プラス)

宮澤辰之、森田健介、松田健吾、植竹伸剛、高木慶、
内藤友基 (記録撮影)、高野佳彦(書記)

書類審査

[審議員] 音好宏 (敬称略)

議題： (1) 2025年7月～9月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや
指摘・意見について
(2) 「WOWOW プラス」の番組内容、編成内容に関する審議

報告事項： 2025年7月～9月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について

株式会社 WOWOW プラス メディア戦略局長より代表的な内容等の概要説明を行った。

審議事項： [審議番組]

『オオカミの家』権利取得から放送までの取り組み

<審議意図>

2025年8月にチリ発のストップモーション・アニメーション映画『オオカミの家』を放送。南米チリのアーティスト・デュオ、クリストバル・レオンとホアキン・コシニヤが監督を務める本作は、極めて独創的かつ悪夢的な映像スタイルが話題を呼び、2023年にわずか3館の公開が70館以上にまで拡大、ミニシアター界を揺るがす大ヒットを記録。当社は、本作の日本配給協力とともにパッケージ化・放送・配信の権利を取得し角的なコンテンツビジネスを開拓した。

今回の放送にあたり、本作の難解な背景を解説する約4分のミニ番組を制作し本編前に放送。視聴者が本作の異形な世界への理解を深め、より没入するための視聴環境を提供した。

- ・本作の権利取得への評価と、それが WOWOW プラス視聴者にとって価値ある企画と考えられるか
- ・特別解説は本作への理解を深める内容になっているか

審議内容： ■審議員意見

- ・これはすごい。カルチャーショックを受けるような作品。本作はカルト宗教コミューンというかカルト的というか、5年かけて1時間強の作品を作り上げる忍耐、執念に加えてもちろん才能とセンスが相まってものすごい作品になっている。小説に例えるならエドガー・ア

ラン・ポー「アッシャー家の崩壊」「黒猫」を思わせ、一人では見たくない作品、という印象。

- ・驚愕のアニメ、独創的な手法で、二人の監督が執念をもって志強く作られている。生まれては壊れ、書いては消す、という作り方の発想自体に圧倒された。ストーリーも難解で「ホラー・フェアリーテール」という意味の分からぬ形容がされるような内容にどんどん引き込まれていった。何よりもこの作品をいち早く興味を持って配給から絡んでパッケージ、放送、配信と権利を取り展開していることそのものが一番素晴らしい。解説番組は背景なども説明があり4分間できれいにまとめてくれていて本編前の導入として素晴らしい出来。WOWOW プラスには今後も是非この方向性を続けていただきたい。
- ・解説の4分は素晴らしい、分かりやすい。この本編は見るまでに勇気が必要なので。ステップアニメーションの手法は最近よく使われていてリラックマやマイメロなどかわいい方向で若手がやっているが、この作品の作り方は非常に大変だったのだろうな、と思う。企画として最初の買い付けから取り組まれていく試みは続けていただいてよいと思う。
- ・全く分からなかった。自分の感性ではなくとにかく苦痛で仕方なかった。自分が説明できるものは過去にあったはずのものなので自分が分からぬ、説明できないものは乗るようになっているのだが、今回は解説を見ても全く分からず、ということで自分のファイルに存在しない=新しい、ということでこの作品は「乗り」。皆さんのご意見を伺ってそれだけすごかったのか、という感想。
- ・刺さる人には刺さるが、アート指向が強く、難解で政治的なメッセージも含まれているので、多くにとってはハードルが高く、故に目に触れにくい作品。それを取り上げたという意味では、キュレーション的役割を果たしているので、価値ある権利取得であり、編成だったと思う。一方で紹介番組に関しては作品と背景、共に情報量が多いのでもう少しゆっくりしたテンポの方が飲み込み易かった気がする。また政権と監禁、ペドフェリアという暗部を描いた作品のガイドとしてはナレーションがライトで釣り合っていないように思えた。
- ・一種のアートアニメーションというか、ダークファンタジー。作品としてとても面白いが極端に観客を選ぶ。そのカルトぶりが劇場でのヒットに結び付いていると思う。商業的な判断だけでは放送やパッケージ化が難しそうな作品を敢えてやろうというのが専門チャンネルならでは。すごいと思うが大好きになるのは大変な作品。特別解説もいろいろ知りたい欲は出るが、本編前の情報としてはあれでよかつたのでは。日本でなかなか見る機会のないタイプのアニメーションなので、探してきてもらうのは意義がある事。
- ・「オオカミの家」は、クリストバル・レオンとホアキン・コシニャの独特な世界観に浸ることができる作品。『特別解説「オオカミの家」の招待状』は、短尺の解説ではあるが、このところ注目されている二人のチリの監督の世界にスムーズに入って行くことのできる、良いイントロダクションになったと思う。ただ、この解説動画はもう少し長くても良かったのではないか。特に、チリ・ピノ・チエット軍事政権との関係など、制作者の歴史的背景はもっと詳しく説明して欲しかった。

連絡事項： 次回番組審議会は、2026年1月15日(木)午前11時(予定)より開催。

以上